

Princeton

USB2.0 オーディオキャプチャユニット

デジ造 PCA-ACUM

Digital Creation Gear Digizo

活用ガイド

本書では、本製品付属の音声編集ソフト『SoundStudio3』を使用した音声の録音と『SoundStudio3』の主な使い方をご紹介します。

！ 本書をお読みいただく前に

本書をお読みいただく前に、必ず「設定ガイド」に従ってドライバ（ソフトウェア）のインストールを行ってください。

SoundStudio3 に関する詳しい使用方法については、CD-ROM に収録されている「マニュアル.pdf」を参照してください。

■ SoundStudio3 について

※収録されているサウンドファイルなどについては、商用目的でない範囲でご利用いただくことができますが、これらのファイルを複製したり、編集・変換したり、使用したりした内容や結果は、商用・非商用を問わず、ソフトウェアの使用が許諾されたお客様以外の第三者に配布・配信したり、放送・公開などをおこなうことはできません。

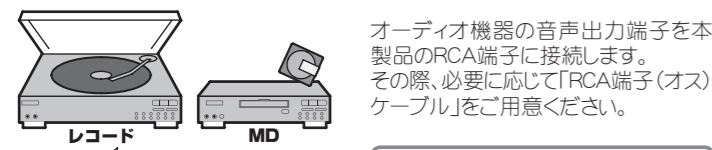
※映像、静止画、音楽などは著作権として著作権法によって保護されています。市販あるいはレンタルで提供されるビデオ、DVD、CDや、テレビ放送、ラジオ放送などは、個人で楽しむ場合を除き、複製（コピー）または録画、録音をすることが著作権法によって禁じられています。ご自身のオリジナルではないこうした著作物を、私的利用の範囲を超えてホームページなどに掲載したり、他人に譲渡、販売するなど頒布、配信する場合（改変、編集した場合も同様です）には、著作権者の許諾を得る必要がありますので十分ご注意ください。

オーディオ機器の接続

本製品には、レコードやMDプレーヤー、ラジカセなど音声出力端子を搭載したオーディオ機器を接続することができます。オーディオ機器との接続は、2種類の方法があります。

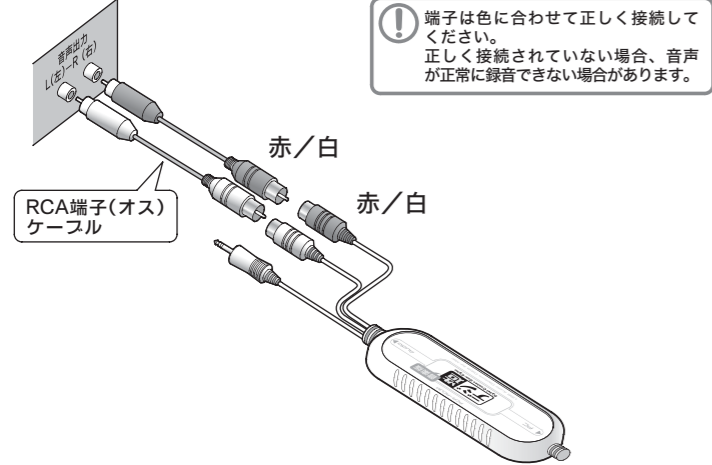


■ RCA端子で接続する場合

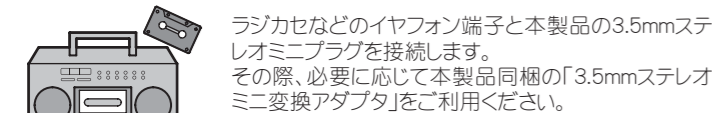


オーディオ機器の音声出力端子を本製品のRCA端子に接続します。その際、必要に応じて「RCA端子（オス）ケーブル」をご用意ください。

！ 端子は色に合わせて正しく接続してください。正しく接続されていない場合、音声无法正常に録音できない場合があります。

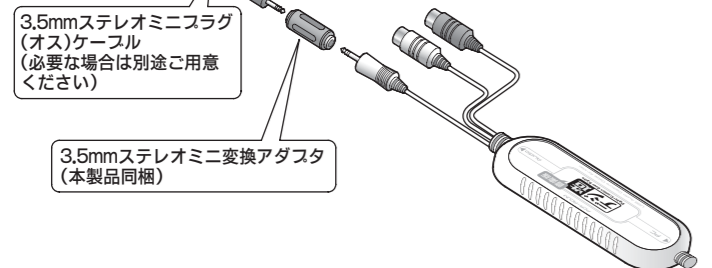


■ 3.5mmステレオミニプラグで接続する場合



ラジカセなどのイヤホン端子と本製品の3.5mmステレオミニプラグを接続します。その際、必要に応じて本製品同梱の「3.5mmステレオミニ変換アダプタ」をご利用ください。

必要に応じて本製品同梱の「3.5mmステレオミニ変換アダプタ」をご利用ください。



ソフトウェアの準備

■ 入力デバイスの設定

ソフトウェアを使用する前に、ソフトウェアの設定を確認または変更してください。

[アプリケーション]フォルダの[サウンドスタジオ3]フォルダを表示して、『SoundStudio』アイコンをダブルクリックすると、SoundStudio3が起動します。



メニューの[SoundStudio]から[環境設定]を選択します。

[SoundStudio環境設定]の[オーディオ設定]の[入力]で[USB PnP Audio Device]を選択します。

設定が完了したら画面を閉じます。

！ [SoundStudio環境設定]画面では、本製品（デジ造音楽版）は「USB PnP Audio Device」と表示されます。本製品は、必ずMac本体に直接接続してください。



■ MP3オープンソフトウェアのインストール

MP3オープンソフトウェア（LAME Ain't an MP3 Encoder）のインストールを行わないとMP3ファイルの保存ができません。以下の方法でインストールを行ってください。

ブラウザから以下URLを入力します。

<http://www.ktunes.net/downloads/LAME.zip>

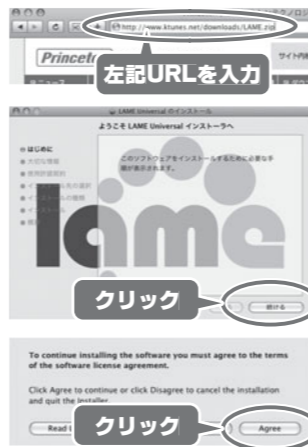
「ようこそLAME Universal インストーラへ」画面が表示されたら、「続ける」をクリックします。

「大切な情報」画面が表示されたら、「続ける」をクリックします。

「使用許諾契約」画面が表示されたら、「続ける」をクリックして、引き続き表示される画面で「Agree」をクリックします。

インストール先を確認したら、「インストール」をクリックします。

以上でインストール完了です。



ソフトウェアの画面

ソフトウェアを起動すると、ドキュメントウィンドウが表示されます。表示されない場合は、[ファイル]メニューから[新規作成]を選択してください。



メニュー ソフトウェアのすべての機能は、このメニューから選択して使用します。



スライダをドラッグして、表示の拡大/縮小を行います。

入力レベルウィンドウ 録音時の音量を調整します。

マーカウィンドウ マーカを使用した際に、リスト表示されます。マーカの編集を行うことも可能です。

コントローラ 頻繁に使用する操作が、あらかじめボタンとして配置されています。マウスでボタンをクリックするだけで、素早く目的の操作を実行できます。コントローラで行える操作は、メニューから選択しても実行することができます。

メニュー一覧

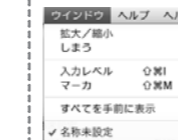
SoundStudio

ソフトウェアの主な設定を行います。



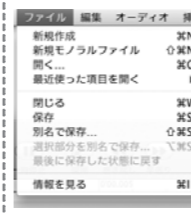
ウィンドウ

入力レベルウィンドウやマーカウィンドウの表示/非表示を行います。



ファイル

ファイルの保存や読み込みを行います。



ヘルプ

ヘルプを表示します。



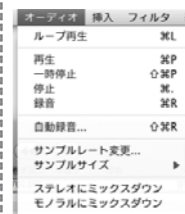
編集

ファイルの編集を行います。



オーディオ

音声の録音や再生に関する編集や設定を行います。



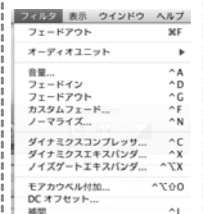
挿入

音声データにマーカ（印）や無音部分やトラックなどを挿入します。



フィルタ

音声データに様々なエフェクト処理を行います。



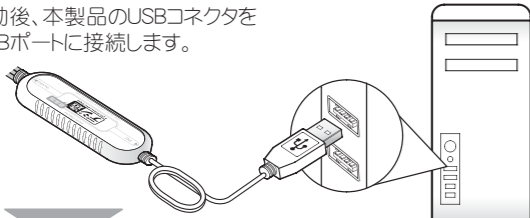
表示

画面表示やマーカ、グリッドに関する設定を行います。

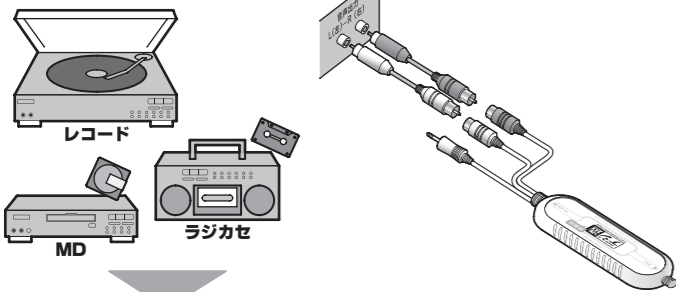


音声の録音

Macの起動後、本製品のUSBコネクタを本体のUSBポートに接続します。



オーディオ機器を本製品に接続します。



[アプリケーション]フォルダの[サウンドスタジオ3]フォルダから『SoundStudio 3』を起動します。



[ファイル]メニューから[新規作成]を選択します。



環境の設定

[SoundStudio]メニューから[環境設定]を表示します。録音作業中の表示や保存先や入出力の設定を行います。「プレイスルー出力」をチェックを付けると録音中の音源を確認しながら録音が可能です。



チェック

PDFマニュアル P.13
「環境設定」

保存先の設定

入力

チェック

PDFマニュアル P.13
「環境設定」

録音時の音量設定

[ウインドウ]メニューの[入力レベル]を選択すると『入力レベル』画面が表示されます。スライダをドラッグして、録音時の音量を設定します。

レベルメータ表示が常に赤い部分にある場合、音量が大きすぎる可能性があります。再生機器の音量や入力レベルで調整してください。



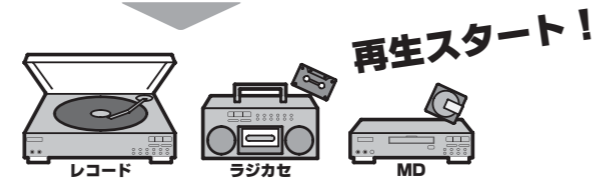
PDFマニュアル P.22
「レベルメータ」

「プレイスルー」のチェックを付けると、録音中の音源を確認しながら録音が可能です。

チェックを外すと、LRのスライダを個別に動かすことができます。

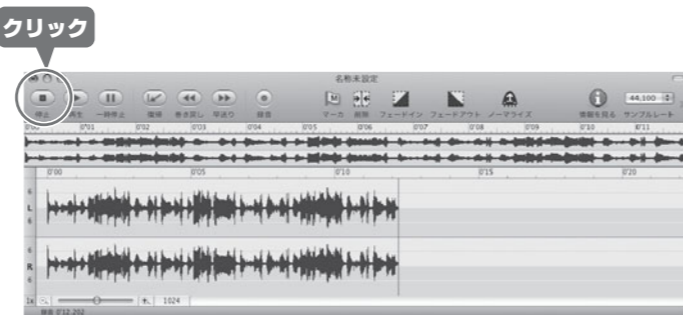
録音

コントローラーの録音ボタンをクリックすると録音を開始します。



オーディオ機器で音声を再生します。

停止する場合は、停止ボタンを押します。

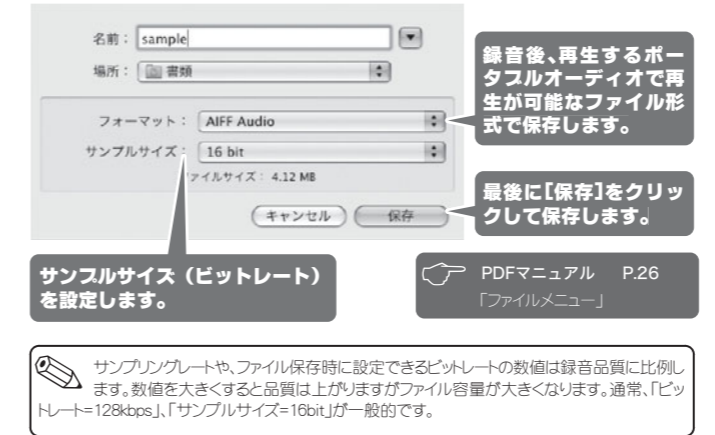


録音されたデータがドキュメントウィンドウに表示されます。

PDFマニュアル P.17
「ドキュメントウィンドウ」

ファイルの保存

録音が完了したら[ファイル]→[保存]を選びデータを保存することができます。保存を行わずに、「編集」や「サウンドの分割」をすることも可能ですが、操作に慣れるまで、一度保存しておくことをお勧めします。



録音後、再生するポータブルオーディオで再生可能なファイル形式で保存します。

最後に[保存]をクリックして保存します。

サンプルサイズ (ビットレート) を設定します。

PDFマニュアル P.26
「ファイルメニュー」

サンプリングレートや、ファイル保存時に設定できるビットレートの数値は録音品質に比例します。数値を大きくすると品質は上がりますがファイル容量が大きくなります。通常、「ビットレート=128kbps」、「サンプルサイズ=16bit」が一般的です。

サウンド編集の基本操作

サウンドを編集する場合は、ドキュメントウィンドウで波形をドラッグして、編集する範囲の指定します。



範囲が選択された状態で、[編集]→[フィル]メニューを選択すると、様々な加工を行うことができます。

マーカーを利用したサウンド分割

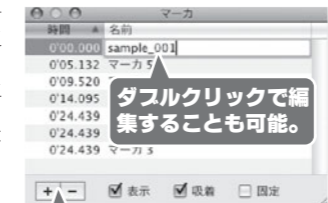
波形上に挿入されたマーカー位置で、自動的にファイルを分割保存することができます。波形上の分割したい位置をクリックして、コントローラーの[マーカー]をクリックすると、波形上にマーカーが挿入されます。



2.クリック

1.分割位置でクリック

挿入されたマーカーは[ウインドウ]メニューの[マーカー]を選択すると一覧表示することができます。また、各マーカー名をダブルクリックすると名前を変更することができます。ここで付けられたマーカー名は、分割保存時にファイル名として使用されます。



ダブルクリックで編集することも可能。

新規にマーカーを追加することもできます。

[+]マーカー追加
[-]マーカー削除

[編集]メニューの[マーカーにより分割]を選択すると、設定画面が表示されます。分割保存されるファイルに設定するファイル情報や、ビットレート、保存先などを設定して、[マーカーにより分割]をクリックすると、設定内容にしたがって分割保存されます。



PDFマニュアル P.28
「編集メニュー」

その他便利な機能

ノイズ除去機能 (ノイズゲート)

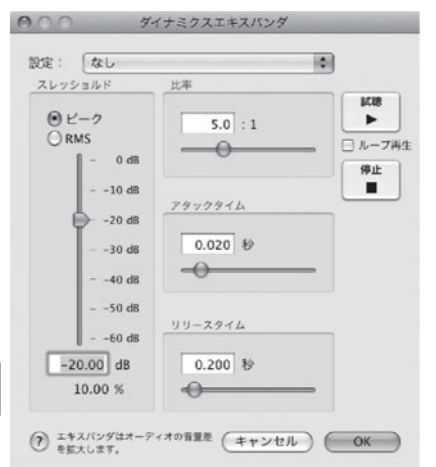
ノイズゲートは、ボリュームを幅広くしぼることのできるエクスパンダの一種です。“スレッシュホールド(限界値)”音量以下のオーディオすべてを無音にします。“アタックタイム”はスレッシュホールドをこえる音量に反応する速さを決め、“リリースタイム”はスレッシュホールド以下に音量が戻った時の反応の速さを決めます。ドラムなどの打楽器や、会話を録音する場合にもっとも役立ちます。オーディオ信号の間にあるギャップ部分を完全に無音にできます。



PDFマニュアル P.41
「ノイズゲートエクスパンダ」

ダイナミックエクスパンダ

ダイナミックエクスパンダでは、オーディオの小さな音量部分と大きな音量部分との差を上げます。スレッシュホールド(限界値)以下の部分は音量を下げ、スレッシュホールド以上レベルの部分は音量を上げるはたらきをします。



PDFマニュアル P.40
「ダイナミックエクスパンダ」

ノイズの多い録音に適用すると、小音量の部分での音量を下げるので、ノイズをあまり感じなくなります。

PDFマニュアル P.40
「ダイナミックエクスパンダ」

ダイナミックコンプレッサ

ダイナミックコンプレッサは、オーディオの小さな音量と大きな音量との音量差を縮めます。スレッシュホールド(限界値)を超えるオーディオについて、圧縮比で決定された量だけ音量を下げます。ポストゲインは、圧縮した音量を補正するため、全体の音量を増します。



PDFマニュアル P.39
「ダイナミックコンプレッサ」

スピーチ等の音量が不均等な音声に使用すると、音量レベルの差を補正して、一定の音量レベルにそろえることができます。

PDFマニュアル P.39
「ダイナミックコンプレッサ」

自動録音機能

自動録音機能では、下記の場合に大変便利な機能です。

- 決められた時間に録音を開始し、一定時間で録音を終了したい場合。(ラジオ録音など)
- ある一定の音量を感じたら自動的に録音を開始したい場合
- ある一定の音量以下になったら自動的に録音を停止したい場合

詳細は、PDFマニュアルを参照してください。



PDFマニュアル P.32
「自動録音」